道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

2月号のエッセイに登場したダカールラリー2026完走者の藤原慎也さんは、今年の大物ゲスト。SSTRにダカール精神は必須です。

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

バイク冒険家の風間深志氏が主催するSSTR（日もシンプルな要素とリンクの出の太平洋から日の入りの日本海は千里浜までを1日で旅する「サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリー」）、今年は5／23から9日間に渡って開催されました。来年は15回目の節目を迎えますが、コロナ禍や2年前の能登半島地震の中でも形を変えて開催し、「己への挑戦」「ライダーが貢献できること」を掲げてきた稀有なイベントです。参加人数が年々増え続ける中での大変さはあるものの（今年は1万4千台）、終わってみれば既にみんなSSTRロス。何がここまでライダーを惹きつけるのかというと、人はなぜ移動するのか、集うのか、旅をするのかという最初日。昨年と同じく名古屋近くからスタートして大好きな岐阜北上ルートでしたが、何度走っても全く別の旅になり、楽しくて仕方ありません。愛知県知多半島に前日入りした時に携帯ホルダーが壊れてみんなの知恵で直してもらったり、スタート時にシステム起動を忘れて大慌てしたり、他にもポカはいっぱいありましたが、それをも含めて私らしい旅だったかも。このイベント、道の駅・SA／PA・指定の能登復興ポイント・自然災害伝承碑ポインルなどを回ってゲームのようにそれぞれの道を組み立てるのですが、今回はたくさん回ろうと決めて昨年の2倍くらい立ち寄りました。自分では一生気づかないだろうなと思う場所にも導かれ、途中で会える人たちにもいっぱい元気を貰って大満足。やっぱりツーリングは冒険だーっ！

私のカフェでは、このイベント時期はSSTR一色となります。帰路に遠くからも寄ってくださり、「お帰りなさい」モード。千キロ2千キロは当たり前の移動の中、ゴール後の疲れを癒すオアシスになればという思いですが、みんなの感想を聞くのが本当に楽しみ。初めての人、ベテランなのに回りすぎて時間オーバー（時間内未完走）になった人、病気回復後の旅、夫婦でタンデムなど、全員ろ、翌年に父が加わり、3世代でSSTRを5回やって全て完走。大雨で走った初回には「親子3世代敢闘賞」のアワードをゲット。

「休憩してもオヤジは早く行こうってウルサイんだよ」とボヤいていましたが、お父様（現在83歳）がいつまでも元気な秘訣は刺激かもしれません。（ちなみに親子揃って乗り物と動物好きで、父が馬を飼い、年保さんが草競馬もやっています）。

スキー&スノボ仲間でもある長野市の中山ファミリーは、このエッセイに何度も登場しています。4年前に初めてサイドカーに子供3人を載せ、車両同行も含めて一族8名でSSTR参加。以来毎年参加し、彼らを知る人たちはどんどん増えていきました。「ちぃちゃんファミリー」と呼ばれていますが、次女の千宙（ちひろ）ちゃんは、脳性麻痺で車椅子生活ですが、その愛らしさ故にどこでもアイドル級の人気。家族全員の明るさと懐っこさと前向きな生き方に、みんな一家のファンになってしまいます。数年の間に子供の環境が変ったり、ちぃちゃんの背骨矯正手術もあったけれど、前向きとチャレンジ精神は増すばかり。この先も楽しみです♪

まだまだ余韻が続く中、すでに来年を目指して計画を立てている人たちも多いようですが、私は近々、地震後まだ行ってない輪島に向かおうかと思っています。忘れ物を取りにいく気持ちに近いかもしれません。大切なのは、関わること、知ること、思いを繋げること。そう、SSTRはイベントだけれど、みんなの一番の原動力は、あの能登への思いなのだと思います。能登よ、待ってね。私の旅（SSTR番外編）はまだまだ続きます。

20代からのおつきあいSSTRゲストの賀曽利隆さんは、300日3000湯でギネス記録を持ち、アフリカへ今でも通う鉄人ライダー（78歳）。地球200万キロ達成まであと7万キロ。突然寄ってくれたので、帰路のライダーたちはみんな大喜び！

SSTR後にカフェに来てくださった「道の駅スカイドーム神岡」副駅長の多斐（たび）敏博さん。バイク専用駐車や公認オリジナルステッカーの無料配布（1500枚が途中で終了）やスタッフ対応などのおもてなしが神技で、話題に。話が尽きませんでした！

最高年齢アワードを4回取った現在92歳の伊藤静男さん（私の隣・名古屋市）が250ccで元気にやってきた。女子会に混じったら10歳は若返っていた。創世記にトライアル競技を広めた功労者で、最近までBMWを颯爽と乗りこなしていた。来年出ちゃう？

2020年11号登場の南知多町のポン菓子「ぽんかふぇ」（家田薫子さん代表）」前。前日の機器故障を直してくれた面々と。翌5時前のスタートには、36台が集合（その日は3557台出走）。薫子さんは毎日朝4時に開店して8日間のお見送りを敢行。

主催の風間さんと最終日にゴールした馨子さんと保さん。旦那様は2015年に脳梗塞になるもカブに乗れるようになり、薫子さんのサポートで3度目の参加。立ち寄った20箇所全ての道の駅でしっかり休憩をして進んだそう。

思い出しても涙がでそうな2020年の猿田家3世代の初参加（大雨の中、スタートの駿河湾に行く前にカフェに現れた！）。父のトライク（二輪を改造して三輪にしたというハーレーの1700cc）は、イベント中の演歌かけを封印。

父中山和彦さんの実家が近所なので、毎回スタートは「ぽんかふぇ」前。サイドカーに梨音ちゃんとちぃちゃん、タンデムシートに大河くん。母梨恵子さん（ライダー）と梨恵子さんの父坪谷さんは四輪で同行。YouTuberのあおぐさんは、4年前から同行する大切な仲間。

道路交通情報

◇道路緊急ダイヤル　#9910
◇NEXCO東日本　https://www.e-nexco.co.jp/
◇NEXCO中日本　https://www.c-nexco.co.jp/
◇NEXCO西日本　https://www.w-nexco.co.jp/
◇首都高速　https://www.shutoko.jp/
◇阪神高速　https://www.hanshin-exp.co.jp/
◇本四高速　https://www.jb-honshi.co.jp/
◇日本道路交通情報センター　https://www.jartic.or.jp/

道路ニュースの宛名変更・発送停止について

○**宛名変更**：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《変更後の住所》、《「社名」または「氏名」》、《宛名変更》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。

○**発送停止**：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《「社名」または「氏名」》、《発送停止》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。

【宛名記載例】
〒100-0013
東京都千代田区霞が関3-3-1　尚友会館6F
全国道路利用者会議　様
No.0000　または　**U-00000**　1部

FAX　03-3501-5612
E-mail　the_road_news@road-jhuc.jp

九州の散歩道

どこか懐かしい、「ところのバス停」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

スタジオジブリの名作アニメとして知られる「となりのトトロ」。1988年公開ですが、現在もテレビで放映されるなど高い人気を誇っています。作中に登場するトトロは空想上の生き物ですが、何だか本当にいそうな不思議な存在感を持っています。

「となりのトトロ」の舞台となっているのは、日本の原風景とも言える里山の光景です。森があり、山があり、田畑がある。その中で人々が自分たちの暮らしを営んでいます。懐かしさを誘うこの光景が作品の大きな魅力になっていることは間違いありません。日本各地で作中に登場するシーンをイメージさせる場所が観光名所になる現象が発生しました。

私がひときわ印象深く覚えているのは、雨の中で大きなトトロが傘をさしながらバス停で猫バスを待っているシーン。空想上の生き物のトトロが主人公の少女たちと並んで傘をさしている姿はどこかシュールでおかしみがあり、好きなシーンのひとつです。

大分県佐伯市には、その名も「ところ」というバス停があります。大分バスのバス停で、偶然にもこの地域が「轟（ところ）」という地区だったのです。

アニメが公開されてしばらくすると、ここに作中に登場するキャラクターの手描きパネルが置かれるようになりました。近くに住む子どもが「ところのバス停に『となりのトトロ』がいたらいいね」と言ったことがきっかけだとか。本物のバスが止まる「ところ」のバス停は話題のスポットとなり、多くの人が訪れるようになりました。

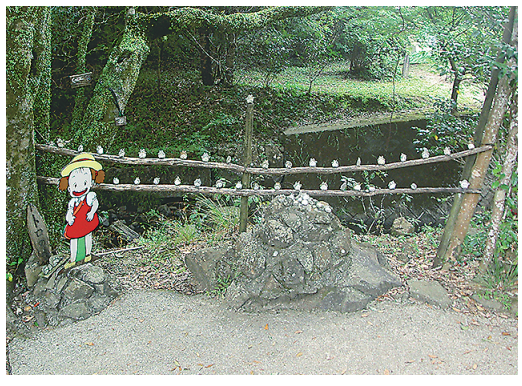
現在のバス停にはトトロたちのパネルが設置され、バス停の標識も待合所も古びた雰囲気を漂わせています。実は、ダイヤ改正でこのバス停を通る路線が廃止され、大分バスのバス停としては役割を終えてしまったのですが、バス会社の好意で標識も待合所も運行当時のままに残されることになりました。今はコミュニティバスの停留所として使われています。

バス停から少し離れた場所には「ところの森」があります。木々の緑に包まれて澄んだ水が流れる静かな里で、木の枝などに小さなトトロがたくさん並んでいます。このトトロたちは訪れた人々が記念に残したものだそうです。

アニメの温かくやさしい世界に共感した人々が身近なところにトトロを感じ、それを企業や自治体も受け入れる。現実世界でも温かくやさしい世界が広がっているようです。

（写真提供：ツーリズムおおいた）

当時のままに残る「ところのバス停」



小さなトトロが並ぶ「ところの森」